



TITLE:

丁抹國ノ社會主義

AUTHOR(S):

河上, 肇

CITATION:

河上, 肇. 丁抹國ノ社會主義. 經濟論叢 1918, 7(3): 425-428

ISSUE DATE:

1918-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/127426>

RIGHT:

雜 錄

丁抹國ノ社會主義

河 上 肇

交戰國タルト中立國タルトヲ問ハズ、今日歐洲ノ諸國ニ急激ナル勢ヲ以テ實現サレツツアル社會主義ハ、國際社會主義デモ無ク、都市社會主義デモ無クテ、國家社會主義デアアル。其國家社會主義ハ、或ハ官僚的社會主義ト見ルベキモノアリ、或ハ民本的社會主義ト看做シテ差支ナキモノモアリ、國ニヨリテ事情ヲ異ニシ、人ニヨリテ又所見ヲ異ニスベシト雖モ、要スルニ今日、世界諸國ノ經濟組織ノ上ニ一大革命起リ、國家社會主義ガ滔々タル勢ヲ以テ實現サレツツアルハ、何人モ看過スル能ハザル事實デアツテ、其意味ニ於テハ、社會的政治的革命ノ行ハレタルハ、獨リ露西亞ノミデハ無イ。衰弱シタル病人ガ、酷暑ノ襲來ニ依リ、相次イデ死亡スルガ

如クニ、諸國ニ於ケル舊來ノ經濟組織ハ、今ヤ大戰ノ襲來ニ遇ウテ、脆クモ片端ヨリ崩壞シ、次第々々ニ其組織ヲ一變シツツアル。私ハ今是等ノ現象ヲ見テ、戰後ハ果シテ如何ニ成行クデアラウカト、聊カ驚異ノ眼ヲ見張リツツアル者デアアル。

併シ私ハ、今其事ヲ茲ニ論述スル積リハ無イ。私ノ茲ニ記述セントスルハ、歐洲中立國ノ一タル丁抹ニ於テ、近來如何ニ急激ナル社會主義的施設ガ實現サレツツアルカ、トイフ事ノ一斑デアアル。交戰諸國、殊ニ敵國側ノ獨逸、并ニ協商側ノ英國ニ於テ、今日如何ニ根本的ナル經濟組織ノ變動ガ實現サレツツアルヤト云フコト及ビ此等經濟組織ノ改造ハ、少クトモ諸國第一流ノ政治家ノ意識内ニ於テハ、戰後永續的ノモノトシテ最初ヨリ計畫サレツツアルト云フ事、ナドハ、蓋シ世間周知ノ事實デアラウ。只一小國ナル丁抹ニ於テ、近時行ハレツツアル經濟組織ノ革命ノ如キハ、或ハ世間ニ傳ハルコト未ダ委シカラザルモノノ一ツデアラウ。然ルニ近頃

船載セシをりんぐ及ビれいごらあ両氏ノ編纂ニ成ル『國家社會主義』ヲ見レハ、中ニ一九一六年十二月十日發行ノ紐育『イーダにんぐ・ぼすと』ニ載セラレタル特別通信ヲ引用シ居レルガ、丁抹國近時ノ大勢ハ、之ニ依ツテ略ボ其一斑ヲ知ルコトガ出來ル。試ニ其大意ヲ譯出スレバ左ノ如クデアアル。

丁抹國ニ於テハ、既ニ總テノ主要産業ヲ國家管理ノ下ニ置イタ。生産及ビ消費ノ管理、或程度以上ノ利得ハ之ヲ公共ノ目的ノ爲ニ徵發スルコト、最低勞賃ノ強行、總テノ階級ノ者ニ向ツテ一定ノ生活程度ヲ保證スルコト、此等ハ既ニ凡テ丁抹國ニ實現サレタ所デアアル。内閣ノ一員タルすなうにんぐノ公言セシ所ニ依レバ、此等ノ計畫ハ將來ナホ一層強烈ナル形式ヲ以テ實行サルベシトノ事ニテ、其事ハ總理大臣ツゝめ一レノ裏書シタル所デアアル。彼ハコーべんはーげんニ於ケル市民大會ニ臨ミテ、今回ノ大戰ノ爲ニ惹起サルベキ經濟上ノ恐慌ハ尙一層ノ甚シサヲ加フルニ至ルベク、今日ハ如何ナル國家モ異常

ノ方策ヲ樹テザル限り總テ生キ殘ルコト能ハサルベシ、ト警告シタ。

すなうにんぐハ十一月(一九一六年)ノ末、隣國ノ瑞典ヨリ招カレ、對岸ノまるめを市ニ於テ、瑞典人ノ爲ニ自國ノ戰時社會主義ノ説明ヲシタ。彼レノ説明セシ所ニ依レバ、次ノ年度(一九一七年度)ニ於ケル主タル社會主義的計畫ハ、經濟上ノ利益ノ爲ニ凡テノ主要生産物ヲ標準化シ、全國ヲ通ジテ其品質ヲ一定スルコトデアアル。丁抹國ニ於テハ、既ニ食料品ノ標準化ヲ實行シタ。即チ小麥ノ如キモ之ヲ二種ニ限定シ、(日本ニテ言ハバ、内地米ニ外米ヲ混ジタルモノト、白米ニ麥ヲ混ジタルモノト、此二種ニ限リテ之ヲ販賣スルコトヲ得トナシタルガ如シ)、其品質ノ割合ハ之ヲ法律ニテ一定シ、犯ス者ニハ刑法上ノ所謂ノ加フルコトニシタ。然ルニすなうにんぐノ言フ所ニ依レバ、コノ次ギノ年度ニハ、更ニ進ンデ靴及ビ衣服ノ標準化ヲ實行スルト云フノデアアル。

丁抹國ニ於テ新タニ設ケラレタル『必要品委

員會』及ビ『價格公定委員會』ハ、完全ナル獨裁權ヲ有シテ居ル。今日デハ此『必要品委員會』ガ、國家ノ手ニ依リテ、小麥及ビ其他ノ穀類ヲ輸入シツツアル。又『價格公定委員會』ハ、全國ノ工場及ビ同國ノ主要産業タル農業ヲバ、凡テ國家ノ管理ノ下ニ置イタ。委員會ハ、全國ノ農業者及ビ大工業者（砂糖、皮革、釀造等ノ大規模工業、從事セル者）ヨリ、生産費ニ關スル詳細ノ表ヲ提出セシメ、之ヲ基礎トシテ其製品ノ賣價ヲ定ム。生産者ガ若シ其公定價格ニテ販賣スルコトヲ欲セザル場合ニハ、國家ハ其ノ正當ト認ムル所ノ賠償ヲ爲シテ、其事業ノ全部ヲ買收シ、之ヲ國營ト爲スコトガ出來ル。此ノ如クニシテ、今日丁抹ノ産業ハ、凡テ國家ノ管理ノ下ニ置カレツツアル。

『國家ハ國內ニ於ケル總テノ個人ノ健康及ビ幸福ニ就テ直接ニ全部ノ責任ヲ負フ』トハ、總理大臣ツォーレノ宣言セル所デアル。而シテ彼レノ内閣ハ着々トシテ此主義ヲ實現シツツアル。此等ノ計畫ハ、丁抹ノ如キ小國ニトツテハ、非

常ノ費用ヲ要スルモノタルニ拘ラズ、彼レノ内閣ハ其目的ニ向ツテ勇往猛進シツツアル。

内閣ノ政綱トシテ最も高キヲ置ケルモノハ、『最低所得』ノ制度デアル。一定額以下ノ收入ヲ有スルニ止マル家族ハ、外部ヨリノ助ケナシニ、今日其生活ヲ維持シ能ハザルノ狀態ニ在ルモノナリトイフ事ハ、政府ノ宣言デアツテ、政府ハ此宣言ニ本キ、一定額以下ノ所得ヲ有スル者ニ向ツテハ、其家庭ノ内情ヲ調査スルコトナシニ、一般ニ戰時手當ヲ給與シツツアル。現在ニ於テハ、其最低所得ハ千圓ト定メラレテアルガ、言フマデモナク、戰前ニ在ツテ千圓ノ所得ヲ有セシ者ハ、何レモ可成リノ暮シヲ爲シ得タルモノデアル。政府ハ斯カル目的ノ爲ニ『救助基金』ヲ設ケ、其基金ヲ支出シテ、年千圓以下ノ收入ノ者ニハ小供ノ數ニ應ジテ一定ノ救助金ヲ下附シ、尙一定ノ現品ヲ配付シツツアル。政府ハ又、此等ノ人々ニ向ツテハ、原價ヨリモ安キ直段ニテ種々ノ物ヲ賣下ゲツツアリテ、現ニ石炭及ビこゝくすハ市價ノ半バデ賣下ゲツツアル。こゝ

べんば一げんニ在ツテハ、一日一萬人ノ者ガ其筋ノ扶助ヲ受ケツツアル。

然ルニ丁抹ニテハ、此等ノ計畫ヲ實行スルニツレテ、或方面ノ國家社會主義ハ、更ニ他ノ方面ノ國家社會主義ヲ伴フニ至ルコトヲ經驗シタ。即チ最初ハ、最下層ノ貧民ノ生活ヲ保證シタダケデアツタガ、今日デハ同様ノ方策ヲバ、更ニ其上ノ階級ニモ及ボサナクレバ勿ラナク爲ツタノデアル。ト云フ譯ハ、最高價格ノ勵行ニ伴ウテ、小商人ガ又生活難ヲ訴ヘテ來タノデアル。ソコデ政府ハ、一方ニ於テハ最高價格ノ制度ヲ維持シナガラ、他方ニ於テハ『救助基金』ヲ支出シテ、其等ノ商人ノ生活ヲ保證シツツアル。此ノ如クニシテ、多クノ商人ハ、一定ノ月給ヲ支給サルル國家ノ官吏ノ如キモノニ變化シツツアル。すたうにんぐノ言フ所ニ依レバ、今ヤ生活ノ必要品ハ凡テ之ヲ公有トナシ、國家之ヲ管理ストイフ新時代ガ到來シタ、ト言フノデアル。

以上述べタルガ如キ社會主義的ノ施設ガ、財政上ノ負擔ヲ激増スルニ至リタルハ、言ヲ待タ

ヌ所デアル。而カモ大多數ノ人々ハ己ニ國庫ノ補助ヲ受ケツツアル有様ナレバ、到底之ニ課税スベキ見込ハ無イ。ソレ故、大藏大臣にどわあど・ぶらんですハ、勢ヒ富者ニ重税ヲ課スルノ餘儀ナキニ至ツタ。所得税ハ高メラレ、海運業ニハ重税ヲ課セラレ、殊ニ戰時利得税ハ甚ダ高率ノモノニサレテ居ル。此戰時利得税ヨリノミノ歳入ハ、一九一六年度ニ於テ、三千七百五十萬圓ニ達シテ居ル。丁抹ハ小國デアルカラ、金額ニスレバ少イケレドモ、若シ人口ヲ標準ニシテ之ヲ米國ニ適用シテ見ルト、無慮十二億圓トナル計算デアル。ナホ次年度(一九一七年度)ニ於テハ、嘗テ七年前ニわぐなあ教授ガ獨逸皇帝ニ進言セシ案ヲ採用シテ、奢侈品ニ向ッテハ禁止の重税ヲ課スル計畫デアル。

以上ガ『いーぶにんぐ・ほすと』ニ載セラレタ通信ノ大要デアル。猶其後ノ近狀ハ如何デアル乎。然ルベキ材料ヲ得タナラバ、重ネテ之ヲ報告シタイト思ツテ居ル。